

業務結果説明書

1. 業務の実績

(1) 業務の実施日程

業務項目	実施期間（平成27年7月20日 ～ 平成28年3月31日）									
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
I. 地域の方言に関する諸資料の学習材化と記録保存が必要な方言に関する緊急調査	<p>記録保存が必要な被災地方言の緊急調査、及び、学習材化が必要な方言資料に関する調査活動</p>					<p>1) CD『岩手県田野畑村大芦方言の非ブーズー弁の音声』作成</p> <p>2) CD『よみがえる三陸金浜のことば—昭和の方言談話資料—』作成</p> <p>3) 冊子『よみがえる三陸金浜のことば—昭和の方言談話資料—』作成</p> <p>4) 冊子『釜石漁火の会・おらほ弁で語っぺし 須知ナヨ昔話集』作成</p> <p>5) 冊子『留畑眞さんが語り継ぐ 唐丹十一話』作成</p>				
II. 昔話等の口承活動の支援を通じた地域方言による言語文化活動の活性化	<p>1) 南部弁を語る事業「はっちでずっぱど南部弁」開催（12月5日・八戸市）</p> <p>2) 釜石弁を語る事業「おらほ弁で昔話を語っぺし」開催（2月6日・釜石市）</p> <p>3) 昔話を語り聞かせる事業「おらほ弁で語っぺし・小学校編」開催（11月13日・1月8日・白山小学校・双葉小学校）</p> <p>4) 郷土教育資料関係報告会「明治期から昭和初期の地方教育資料が語る岩手県の国語と方言」開催（2月20日・盛岡市）</p> <p>5) 再委託事業「方言アフレコ教室 in 釜石小学校」開催（11月13日）</p>									

(2) 業務の実績の説明

東日本大震災に伴う大津波により激甚な人的被害を受けた岩手県沿岸部地域では、長年にわたる過疎化に加えて大規模自然災害をこうむったことにより、地域コミュニティ自体が危機に瀕しており、地域文化とアイデンティティーの拠り所としての伝統的方言も消滅の危機に瀕している。本プロジェクトは、このような状況に置かれた地域コミュニティを再興し、地域社会の活力を取り戻すために、地域固有の価値観や文化を反映した方言に着目し、方言を次世代に向けて継承する活動を支援することを通じて、地域の文化的復興を促進することを目的として実施した。

具体的には、これまでの「被災地における方言の活性化支援事業」の成果をまとめた『方言を伝えるー3.11 東日本大震災被災地における取り組み』（2015年6月・ひつじ書房刊）において呈示した次世代継承のための支援ステップ（記録保存・学習材化・方言使用の場の設定）に沿って、文書・音声媒体で記録保存し、次世代での地域文化復興のための学習材化を行うとともに、併せて地域方言が使用されるチャンネルである昔話・伝説や地域の生活伝承等の語りの活動の支援を行った。このような多面的な活動を通じて、おらほ弁（自分たちの言葉、地域方言）で語ることを総合的に促進することによって、地域の言語文化の次世代への継承を支援し、地域方言の持つ豊かな社会的機能について地域社会の構成員、特に子どもたちに気づかせることで、地域文化のサステナビリティ（持続可能性）を次世代に向けて高めることを目指して事業を実施した。

I. 地域の方言に関する諸資料の学習材化と記録保存が必要な方言に関する緊急調査

前年度事業に引き続き、危機的状況に置かれていることが危惧される被災地（三陸沿岸部地域）の方言に関する諸資料（方言による地域の昔話や伝説等の資料、方言に関する地域の記録類等）の収集、及び、文字媒体・電子媒体等での学習材化を以下に示すように継続して進め、被災地の地域方言の再興と次世代への継承を促す学習材としての活用を可能とした。併せて、前年度までの収集資料の補完及び確認のための調査を遂行し、将来に向けて記録保存が緊急に必要な地域方言については可能な限り記録保存のための調査も行った。作成した学習材は、4月以降、被災地の関係者をはじめ岩手県内関係機関（公立図書館等）に岩手県立図書館ネットワークを利用させていただき、被災地をはじめとする地域の関係機関に配布する予定である。CD・DVDについては、将来的に被災地の教育環境が整備された暁にネットワークで配信可能な形式（waveファイル）でも電子ファイル化した。

1) CD『岩手県田野畑村大芦方言の非ズーズー弁の音声』

言語研究上きわめて重要な学術的価値（東北方言中で唯一ズーズー弁ではない音韻体系を有する等）を持つ北三陸の田野畑村大芦地区の音韻・音声資料を、臨地調査によりデジタル録音し、解説ファイルを含めたCD（音声CD及びデータCD）を田野畑方言の学習材として作成した。岩手県沿岸北部の非ズーズー弁は、日本語方言音韻史の再構築に重大な問題を投げかけているにもかかわらず、これまで良質の音声資料が採録・保存されることはなかった。これらの非ズーズー弁地域の中には、田野畑村島越地区のように、東日本大震災に伴う津波によって壊滅的な打撃を受けた地域も含まれている。なお、地域の協力者である牧原登は、震災後の2014年に『岩手県下閉伊郡田野畑村 大芦のことばとその周辺』（私家版470頁）を刊行しておられ、本CDと相互に補完して地域の言葉を後世に伝える学習材となっている。

発話者：橘芳男氏・橘セツ氏・牧原登氏

作成者：大野眞男・大橋純一・小島聡子・竹田晃子・牧原登

収録した大芦方言の発音の特徴：

- ①大芦方言の最も重要な特徴として、シ・ジ・チとス・ズ・ツの発音の区別が存在する非ブーゾー弁であるということ。
- ②東北方言全般では、イとエの拍の区別は一般には存在せず、エの拍に統合しているが、大芦方言ではイとエが対立している。イはイであり、エはイエとなる傾向が強い。
- ③アイやオイ等の母音連続が融合してエ段音となっているが、古老の発音では広いエ段[ɛ]と狭いエ段[e]の対立を残している。
- ④声量の大きな牧原氏の発音では、ユ/ 'ju /は [jɯ] のように、かすかな摩擦を伴っている。
- ⑤ハ行音の発音において、東北地方の日本海側では両唇摩擦音 [ɸ] がしばしば観察され、太平洋側では珍しいとされているが、フィ [ɸi] (火) ・フェ [ɸe] (屁) のように [ɸ] が語的に観察される。
- ⑥北東北方言では、撥音・促音・長音などの特殊拍や二重母音の後部要素が一般的に独質性が弱い非拍方言であるが、大芦方言では拍意識がしっかりとしており、撥音・長音・促音なども一拍分確保される傾向が強い。等々

2) 『よみがえる三陸金浜のことば』CD及び冊子(解説)

方言が生き生きと使われていた昭和時代に文化庁「各地方言蒐集緊急調査」により採録されたが、その後公開されることなく、地域の採録担当者(坂口忠氏)により私蔵されていた貴重な方言談話資料を発掘して、その談話資料の一部を収録したCD『よみがえる三陸金浜のことば』(音声CD及びデータCD)及び詳細な解説(資料の概要、金浜方言の特色、文字化・共通語訳)を加えた冊子(80頁)を宮古市方言の学習材として作成した。宮古市金浜集落は宮古湾最奥部に位置するため、津波による激甚な被害により多くの犠牲者とともに集落の大半が流失している。なお、地域の協力者である坂口忠氏は、震災直後の2012年に『岩手県宮古市宮古 ことばのおくら』(私家版777頁)を刊行しておられ、本CDと相互に補完して地域の言葉を後世に伝える学習材となっている。

発話者：野崎憲一氏、杉田栄次郎氏、山下フク氏、松原邦夫氏

作成者：竹田晃子、坂口忠

収録した談話の内容：01津波(5分14秒)、02津波(4分27秒)、03津波(3分50秒)、04津波(4分53秒)、05津波(3分34秒)、06他の土地(4分26秒)、07遊び(5分01秒)、08遊び(5分21秒)、09遊び・ナモミ(4分21秒)、10ナモミ(4分28秒)、11あいさつ(1分33秒)、12あいさつ(4分11秒)、13あいさつ・礼儀(4分28秒)

3) 『釜石漁火の会・おらほ弁で語っぺし 須知ナヨ昔話集』

昔話を語り伝える釜石・漁火の会代表の須知ナヨ氏の語りについて、断片的には、過去の文化庁事業の中で文字化が行われ、方言による語りの映像・音声資料も一部分作成されていたが、須知氏の語る昔話の全容を伝えるための学習材化は未着手であった。4年間にわたる須知氏の取材・録音作業を踏まえ、代表的な73話について地域方言での語りを文字化し、必要な個所には方言に関する註釈を加え、子ども達の興味・関心を惹き起こすために適宜イラストを添えて、地域の次世代の読書意欲をかきたてることを意図した昔話集(171頁)を作成した。

語り手：須知ナヨ氏

作成者：大野眞男、竹田晃子、小島聡子、釜石・漁火の会

収録した昔話：お月お星、せやみ、貧乏神と福の神（二人旅）、貧乏神と福の神（神棚神）、上方てんぼ、豆穀太鼓、くも息子、笛吹峠（青笹）、笛吹峠（栗橋）、母のまなぐ玉、わらすと地蔵さま、東禅寺の大釜、獺（かわうそ）と狐、馬鹿でも総領、尻かき歌、猿地蔵、糠餅と地蔵さま、指勘定、鼻の無え男と髪が無え女子、寒戸の婆さま、猿と蟹の餅つぎ、豆腐とこんにゃく、百足の用足し、五徳と犬、三人旅、びっきの上方見物、極楽見て来た婆さま、出雲の神さま、かつこうとほととぎす、あてがはずれた占い師、正直親子と泥棒、ぼほぼほ、一つ覚え、ぐず息子、不思議な掛け図、和尚さまと猫、とら猫と和尚さん、法話、禅問答、毒梨、片輪の十五夜、眼鏡（めがね）と剃刀（かみそり）、貧乏な木こり、うぐいすの一文銭、古ぎつね、郵便屋と狐、鶴の恩返し、猿の嫁ご、おしらさま、言葉のきたねえ娘、うぐいすの声、雉子（きじ）娘、白蛇と八雲伝説、迷い家（まよいが）、古屋の漏り、河童淵、河童の証文、上河原淵（わっからぶち）の河童、穴淵の犬、長え長え綱っこ、瓜子姫子、食わず女房、海の水はなぜ辛い、竜神のお告げ、なみなみの屁っぴり爺さま、屁っぴり嫁ご、観音さまのお授けのへら、種なし柿、上の爺と下の爺のどっこかけ、豆っこの話（ねずみ）、豆っこの話（きなこ）、つぶ長者、ねずみの参宮

4) 『留畑眞さんが語り継ぐ 唐丹十一話』

留畑眞氏は、津波で甚大な被害をこうむった釜石市唐丹地区の出身であり、幼少時代に祖父母などから地域の昔話・伝説を語って聞かされていた。若い頃に失明されて以降、鍼灸師として活躍されるかたわら、唐丹の昔話・伝説を語り伝える活動にも取り組んでこられた。留畑氏が聞き伝えた話を十一話選んで、釜石・漁火の会の磯崎彬氏の指導の下に生き生きとした気仙弁（三陸・旧伊達藩領方言）語りとして再構成し、ふるさと唐丹の歴史を知るための学習材化を行った。

話材提供：留畑眞氏

方言指導：磯崎彬氏

作成者：大野眞男、竹田晃子、小島聡子、釜石・漁火の会

収録した伝説・昔話：常龍山（天照御祖神社の縁起）、千葉長門（天照御祖神社の宮司と葛西氏千葉長門守との抗争）、盛岩寺の三十三観音（大正の大火による寺の焼失）、鍋倉の由来（秀吉による遠野阿曾沼氏追討）、桑台峠（峠の名の由来）、赤坂峠（唐丹と日頃市との間の悲恋）、孫太郎（明治の強殺事件）、小熊と鉄砲撃ちの義松おじ（猟師の悲哀）、とんぼの金穴（唐丹の金鉱脈）、遠野のだんこつけ（昔の牛追いたちの仕事）、鈴木東民の祖先（唐丹出身の鈴木東民の家の由来）

II. 昔話等の口承活動の支援を通じた地域方言による言語文化活動の活性化

地域方言を使用する社会的場面を確実に次世代に残すため、方言が継承される培地として昔話等の口承的伝承を語る活動に継続して注目し、地域の昔話を語る団体（釜石市「漁火の会」等）の活動を支援するとともに、同趣旨の団体間の連携交流活動についても支援し、地域の言語文化活動の活性化を図った。また、地域の子どもたちを対象とした昔話等の伝承活動や地域方言による交流機会を設定し、併せて地域方言でのアフレコ体験ワークショップの開催等を通じて、地域の言語文化の世代間継承を促進した。加えて、一昨年度クリーク・アンド・リバー社が作成し、文化庁HPで既に公開している釜石版アフレコ・コンテンツを活用した再委託事業として、方言アフレコ体験ワークショップを

「漁り火の会」とも連携して地域の子どもたちを対象に開催することで、新たなネットワーク・メディアを通じた地域の言語文化の次世代への継承を促進した。

1) 南部弁を語る事業「はっちが・ずっぱど南部弁 ～うん、これアよごあんすナ～」

第2部「南部弁さみっと in 八戸 2015」開催

担当者：大野眞男・小島聡子・竹田晃子・大橋純一

実施形態：南部弁の日実行委員会・八戸市（八戸ポータル・ミュージアムはっち）主催、文化庁支援事業「発信！方言の魅力・かだるびゃ・かだるべし青森県の方言」・同「おらほ弁で語っぺしプロジェクト」共催

日時：2015年12月5日 15:30～20:30

場所：八戸ポータル・ミュージアムはっち

来聴者数：約120名

概要：本プロジェクトと同じく文化庁支援事業である「発信！方言の魅力・かだるびゃ・かだるべし青森県の方言」（代表：今村かほる・弘前学院大学）と連携して、北の南部弁である八戸市と南限の南部弁である釜石市の昔話の語り（釜石漁火の会による）を聞き比べてもらうことによって、それぞれの方言の違い、言葉の味わい、昔話の内容の違い等について実感し、生活語としての方言の豊かさを体感するとともに、同じく東日本大震災による大津波の被災地同士が方言を通じて交流を深め、復興に向かって連携していくきっかけを作ることを目的として実施した。

プログラム：第1部「南部昔コ語りに挑戦」と第2部「やるびゃ・やるべし南部弁サミット」の2部構成であり、本プロジェクトは主として第2部に関わった。プログラムは以下の通り（敬称略）。

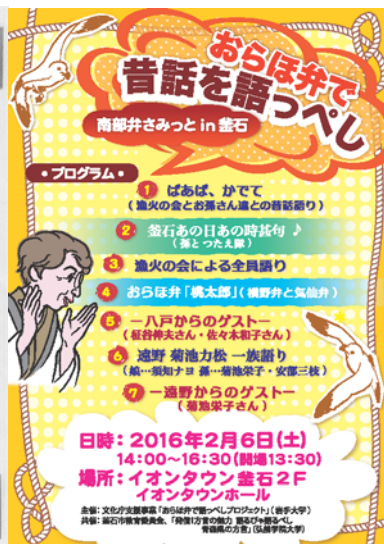
- ①「日本にも消滅の危機にある方言や言語がある」文化庁文化語国語課・鈴木仁也
- ②「津軽弁と南部弁の昔コを楽しみましょう」千葉涼子・柘谷伸夫
- ③「ニュースで比べる津軽弁と南部弁の違い」三橋光子・柘谷伸夫・北村弘子
- ④八戸の方言インタビュー「むがすの八戸」鷹屋敷雄太郎・柘谷伸夫
- ⑤場所によって違う南部弁を昔コ語りで確かめましょう」久慈瑛子・佐々木和子・越膳昌子・北村弘子・藤原マチ子

司会進行：今村かほる・大野眞男

「はっちが・ずっぱど南部弁」ポスター



「おらほ弁で昔話を語っぺし」ポスター



2) 釜石弁を語る事業「おらほ弁で昔話を語っぺし・南部弁サミット in 釜石」開催

担当者：大野眞男、小島聡子、竹田晃子

実施形態：文化庁支援事業「おらほ弁で語っぺしプロジェクト」主催、釜石市教育委員会・文化庁支援事業「発信！方言の魅力・かだるびゃ・かだるべし青森県の方言」共催

日時：2015年2月6日 14:00～16:30

場所：イオンタウン釜石イオンタウンホール

来聴者数：60名

概要：釜石の地域の言葉で日常生活を送ることの楽しさ・面白さについて、方言で昔話を語る漁火の会による語りを通じて気づいてもらうこと、方言が価値の低い言葉ではなく、自分たちの心情を最も忠実に反映できる言葉であって、いろいろな社会的場面で地域の連帯的感情を表現できる言葉であること等について、子どもも含めた地域の方々に理解を深めていただき、方言が次世代に継承されるための社会的認識の改善を促進することを目的に実施した。次世代への継承という観点から、昔話を語る漁火の会メンバーがそれぞれのお孫さん達と一緒に昔話を語る場面を設定した。津波の被災を後世に伝える甚句の披露も行った。また、本プロジェクトと同じく文化庁支援事業である「発信！方言の魅力・かだるびゃ・かだるべし青森県の方言」（代表：今村かほる・弘前学院大学）と連携して、北の南部弁である八戸市の昔話の語り（八戸の語り手による）を聞き比べてもらうことによって、地域の方言の味わい、地域による言葉の違い等について実感し、生活語としての方言の豊かさを体感するとともに、同じく東日本大震災による大津波の被災地同士が方言を通じて交流を深め、復興に向かって連携していくきっかけを作ることをも目的として実施した。最後に、漁火の会の須知ナヨ氏の父親であり、遠野の語り部の鈴木サツ氏（故人）・正部家ミヤ氏・菊池ヤヨ氏の父親でもある菊池力松氏の思い出を、須知ナヨ氏、娘の安部三枝氏、姪の菊池栄子氏が語りあう場を設定した。

プログラム（敬称略）：

- ①漁火の会とお孫さんによる語り「ばあば、かでて！」
- ②釜石、あの日あの時甚句
- ③漁火の会による釜石の昔話の語り
- ④おらほ弁「桃太郎」
- ⑤八戸の昔話の語り（柁谷伸夫・佐々木和子）
- ⑥遠野・菊池力松一族語り（須知ナヨ・菊池栄子・安部三枝）
- ⑦菊池力松一族による語り比べ（同上）

3) 昔話を語り聞かせる事業「おらほ弁で語っぺし・小学校編」

担当者：大野眞男、小島聡子、竹田晃子

実施形態：文化庁支援事業「おらほ弁で語っぺしプロジェクト」主催、釜石市教育委員会共催

日時：2015年11月13日・2016年1月8日（2回実施）

場所：釜石市立白山小学校・双葉小学校学童クラブ

対象児童数：約80名

概要：地域に伝承される昔話は従来から方言で語られ続けてきており、共通語で語ることが最も馴染まない言語活動領域である。本プロジェクトでは、方言を次世代に継承してもらうための効果的な場面として昔話の語りという魅力ある地域素材に注目して、漁火の会の語り手との連携のもとに以下の日程で釜石市内の公立小学校を訪問して、生徒たちに方言による昔話の語り

聞かせを行った。

白山小学校（11月13日に1・2・3学年と4・5・6学年）

双葉小学校学童クラブ（1月8日に全学年）

白山小学校で生徒を対象に実施した事後アンケートの結果は以下の通りである（サンプル数48名、小数点一桁以下・四捨五入、自由記述欄は割愛）。これらのデータから、釜石の小学生たちは、自分自身はほとんど方言を使うことはないが、方言に対して興味を持ち、方言で語られる昔話の世界を楽しんでいることがうかがわれる。次年度以降も釜石市内の小学校で継続的に実施されることが期待される。

(1) 今日のような昔話を、また聞いてみたいと思いますか？

また聞きたい [87.5%] どちらかという、また聞きたい [10.4%]

あまり聞きたくない [2.1%] 聞きたくない [0%]

(2) 釜石のことばや方言は、おもしろいと思いましたが？

おもしろいと思った [77.1%] どちらかという、おもしろいと思った [20.8%]

どちらかという、おもしろくなかった [2.1%] おもしろくなかった [0%]

(3) 自分でも、釜石のことばや方言を使ってみてみたいと思いましたが？

方言を使ってみてみたい [50%] どちらかといえば、使ってみてみたい [31.3%]

どちらかという、使いたくない [10.4%] 使いたくない [8.3%]

(4) 自分でも昔話を語ってみたいと思いましたが？

語ってみたい [31.3%] どちらかといえば、語ってみたい [37.5%]

どちらかという、語りたくない [18.8%] 語りたくない [12.5%]

(5) ふだん、釜石のことばや方言で話すことがありますか？

方言で話すことがある [8.3%] ときどき方言で話すことがある [8.3%]

あまり話すことはない [20.8%] ほとんど話すことはない [62.5%]

4) 郷土教育資料関係報告会「明治期から昭和初期の地方教育資料が語る岩手県の『国語』と『方言』」

担当者：大野眞男、小島聡子、竹田晃子

実施形態：文化庁支援事業「おらほ弁で語っぺしプロジェクト」、文部省科学研究費補助金事業「戦前期地方教育関係資料を活用した近代国語観の見直しと文献方言学の試行」（代表者：大野眞男）主催、岩手県立図書館共催

日時：2016年2月20日

場所：岩手県立図書館ミニシアター

来聴者数：65名

概要：二度にわたる大津波が三陸を襲った明治から昭和初期にかけての時代は、日本の国語づくりにおいても重要な画期であった。明治期には様々な制度が近代化されたが、「国語」という国家語概念も国語調査委員会のもとに整備が行われ、学校教育を通じて国民の間に広められてきた。地域的な「方言」に対して全国に通用する「国語（標準語）」という対立図式も、その時につくられたものである。本報告会では、昭和の大津波に前後する「方言の再発見」期において作成された『岩手県郷土教育資料』等を中心とする教育関係資料から、沿岸被災地の教師たちの国語観・方言観をあぶりだすとともに、75年前の被災地の方言分布状況を再現することを試みた。また、現在の沿岸部方言の生き生きした姿を、方言で昔話を語る釜石・漁火の会のメンバーの語りにより味わってもらった。また、本報告会と関連して、岩手県立図書館ロビー

で関連展示を行った。

プログラム：

- ①明治から昭和初期までの国語観の変遷—津波から立ち上がる郷土の言葉—（大野眞男）
- ②明治30年代の『岩手学事彙報』にみる地域のことばと「国語」（小島千裕）
- ③昭和初期の郷土教育資料に見る「方言」（小島聡子）
- ④方言による被災地の昔話語り（釜石・漁火の会／北村弘子・藤原マチ子・磯崎彬）
- ⑤郷土教育資料に見る岩手の方言分布—沿岸被災地のことばの特色—（竹田晃子）
- ⑥全国の地方教育資料—山梨県を中心に—（吉田雅子）
- ⑦方言データベースを地図化する（鎌水兼高）

関連展示「明治から昭和初期の地方教育資料が語る岩手県の『国語』と『方言』」

担当者：大野眞男・小島聡子・竹田晃子

実施形態：本プロジェクト・岩手県立図書館／共催

展示期間：2016年1月30日～2月28日

展示場所：岩手県立図書館3階閲覧室ロビー

展示内容：沿岸被災地を中心とした「岩手県郷土教育資料」の方言部分と関係年表

「明治期から昭和初期の地方教育資料が語る岩手県の『国語』と『方言』」ポスター

**明治期から昭和初期の地方教育資料が語る
岩手県の「国語」と「方言」**
—「国語」の発見と「方言」の再発見—

二重にわたる大津波が、国語を重んじた明治から昭和初期にかけての時代は、日本の国語づくりに対しても重要な時期でした。明治期には様々な国語観が定まりましたが、「国語」という国家的概念も、国語観を社会がもたらした結果が、学校教育を通じて国語が定まられてきました。地域的な「方言」に対しては、国語（標準語）と二分され、その価値が認められませんでした。本展示では、岩手県に由来する国語教育資料（『岩手学事彙報』）と、その後の『岩手県教育資料』を中心とした大津波に前後する国語の「方言」の再発見までの歴史を、『岩手学事彙報』及び『岩手県教育資料』等を中心とする教育関係資料から追います。自然発生的な方言分布は、方言で国語を語るための手がかりとなり、国語を国語として育てていくための手がかりとなります。

岩手県教育資料から作成した「岩手県方言データベース」の方言分布図

岩手県教育資料から作成した「岩手県方言データベース」の方言分布図

プログラム

- 明治から昭和初期までの国語観の変遷
* 津波から立ち上がる郷土の言葉……………大野眞男/岩手大学
- 明治30年代の『岩手学事彙報』にみる地域のことばと「国語」……………小島千裕/岩手県立大学
- 明治初期の郷土教育資料に見る「方言」……………小島聡子/岩手大学
- 方言による被災地の昔話語り……………釜石・漁火の会
- 郷土教育資料に見る岩手の方言分布—沿岸被災地の言葉の特色—……………竹田晃子/釜石大学
- 全国の地方教育資料—山梨県を中心に—……………吉田雅子/岩手県立大学
- 方言データベースを地図化する……………鎌水兼高/岩手県立大学

日時：2016年1月30日（土）13:30～16:00（開催13名）
場所：岩手県立図書館4階ミニシアター（入館料、要員2名、予約料不要）
〒020-8585 盛岡市盛岡駅前通1-1-1 147 岩手県立図書館4階ミニシアター1階 電話 019-646-1750
（交通案内）盛岡駅前通4丁目、盛岡駅（ロープウェイ）から徒歩10分（徒歩10分）

関連展示：明治から昭和初期の地方教育資料が語る岩手県の「国語」と「方言」
期間：2016年1月30日（土）～2月28日（日）9時～20時
内容：沿岸被災地を中心とした「岩手県郷土教育資料」の方言部分と関係年表

主催：岩手大学
共催：岩手県教育委員会
実施事務局：株式会社クリーク・アンド・リバー社 盛岡支店

**方言アフレコ教室
in 釜石小学校**

平成27年11月13日（金）
14時00分～15時30分開催

講師：北方奈月（伊藤/サンミュージックプロダクション）

みなさんの地元である岩手県釜石の方言に触れ、方言アフレコ教室を実施します。

プロの講師と一緒に地元の言葉でアフレコ体験をしてみませんか？講師の経験がなくても大丈夫、どなたでも参加可能です。地元の言葉でのアフレコ体験にチャレンジしてみたい方ももちろん、仮音や声優に扮している皆さんの参加をお待ちしています。

方言アフレコ体験教室
<http://hogen.bunka.go.jp/>

おもてなし係員さようだい「フッコちゃん」「フッコちゃん」「フッコちゃん」と食べることが大好きな「おなえさん」が、仙台・八戸・釜石に関するクイズやおいしいものを紹介する動画が見られるよ。アフレコ用の台本や、方言ワンポイントレッスンを見ることもできます。

主催：岩手大学
共催：岩手県教育委員会
実施事務局：株式会社クリーク・アンド・リバー社 盛岡支店

「方言アフレコ教室 in 釜石小学校」ポスター

5) 「方言アフレコ教室 in 釜石小学校」開催（再委託事業）

担当者：大野眞男、小島聡子、竹田晃子

実施形態：文化庁支援事業「おらほ弁で語っぺしプロジェクト」主催、釜石市教育委員会共催、株式会社クリーク・アンド・リバー社 実施事務局

日時：2015年11月13日 14:00～15:30

場所：釜石市立釜石小学校

対象児童生徒数：5年生18名（小学生）

概要：昨年度クリーク・アンド・リバー社が作成し、文化庁HPで既に公開している釜石版アフレコ・コンテンツ「方言アフレコ体験教室」を活用し、方言で昔話を語る「漁火の会」とも連携した方言アフレコ体験ワークショップを地域の子もたちを対象に開催することで、新たなネットワーク・メディアを通じた地域の言語文化の次世代への継承を促進した。なお、このワ

ークショップは、「おらほ弁で語っぺしプロジェクト」事業の一環として、アフレコ関係コンテンツの作成・運営に卓越した技術・能力を有するクリーク・アンド・リバー社に再委託して実施したものである。

岩手県釜石市立釜石小学校にて小学生を対象としたアフレコ体験ワークショップを開催した。プロの声優を講師として招いての本格的なアフレコ体験に、全員参加のゲームを組み込んだウォーミングアップを加えることで、参加者にはリラックスした環境で楽しみながら方言に触れ、その関心を高めてもらうことで、被災地方言の保存と継承のきっかけとすることを目的として実施した。5年生1クラスを対象に方言アフレコ体験ワークショップを通して、担任教員も交えて楽しみながら方言を発話してもらった。

運営スタッフとしてクリーク・アンド・リバー社関係者のみならず、地元釜石の漁火の会、本プロジェクトメンバー（大野・小島・竹田）が関わり、かつ、釜石市教育委員会が共催していただいたことで、「おらほ弁で語っぺしプロジェクト」の事業として一体感を持った運営体制を組むことができた。

ワークショップの詳細については、クリーク・エンド・リバー社提出の別添資料・実施報告書をご参照いただきたい。

平成27年度 被災地における方言の活性化支援事業

岩手大学 主催

方言アフレコ体験ワークショップ in 釜石

実施報告書

平成27年11月19日

株式会社クリーク・アンド・リバー社

方言アフレコ体験ワークショップの実施

1 概要と目的

本ワークショップは岩手大学の平成26年度 文化庁 被災地における方言の活性化支援事業の一環として、岩手大学より再委託を受け、株式会社クリーク・アンド・リバー社が実施したものである。

文化庁特設 Web サイト「方言アフレコ体験教室」にて公開中の動画と脚本を活用して、岩手県釜石市の釜石小学校にて小学生高学年を対象としたアフレコ体験ワークショップを開催。5年生の学級を対象に5・6校時を活用して、プロの声優を講師として招いた本格的なアフレコ体験を通じて方言に触れ、その関心を高めてもらうことで、被災地方言の保存と継承のきっかけとする。

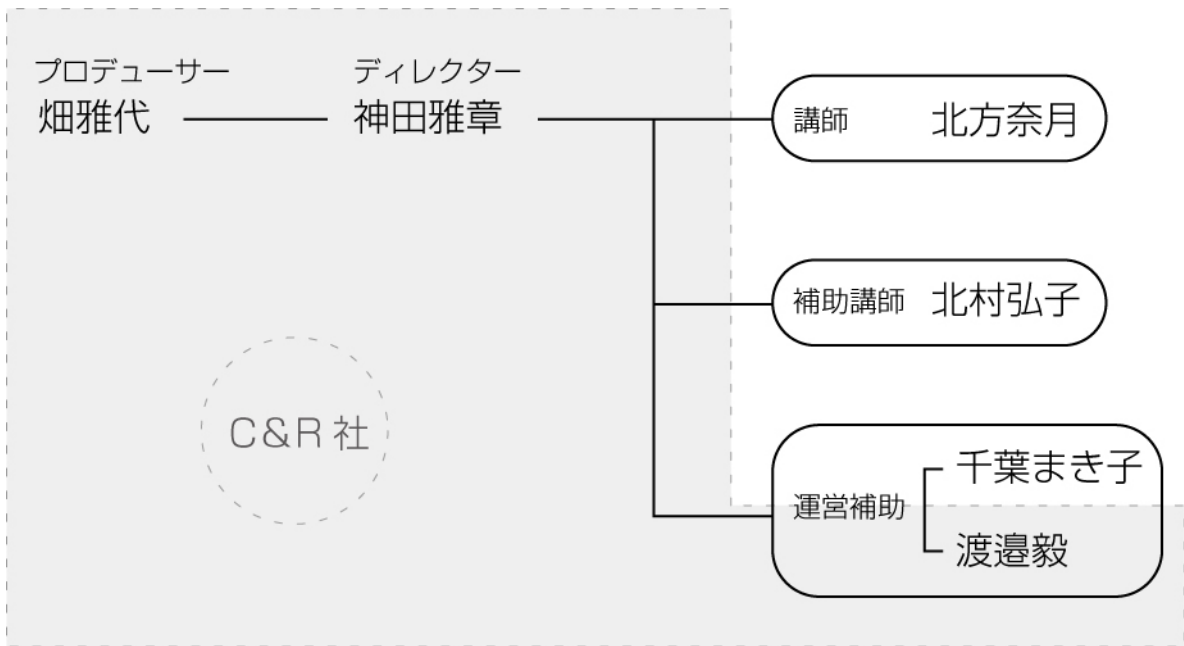
具体的には、共通語と方言とで同じ内容の会話文を読み上げるアフレコ体験をしてもらうことで、楽しみながら方言を発話し、学習指導要領にも示されている共通語と方言との違いを体験しながら理解させることを目的とした。

。

2 ワークショップの日時と開催場所

11月13日（金） 14:00～15:30 会場：釜石市立釜石小学校

3 実施体制



4 ワークショップアンケート集計結果

釜石小学校 5 年生 18 人が参加して 5・6 校時に実施したワークショップでは、同じクラスの仲間や先生と一緒にリラックスした雰囲気の中で、「たくさんの人の前で方言をしゃべれてよかった」という声があったように、非常に楽しみながらアフレコと方言を体験してもらうことができた。

同じ釜石市内でも地域によって方言が異なること、講師からの「どれも釜石の方言だ」とのアドバイスがあり、「分からない方言を楽しく教えてくれたので、良かったです」というように釜石方言を身近に感じられたようだ。また、方言指導を行う「漁火の会」のメンバーが各グループに 1 人ずつ付いて指導を行ったことにより、「釜石弁の先生から教えてくれた。分かりやすかった」といって感想や、アフレコ講師としてプロの声優を招き、アフレコ体験を切り口としたことで、「声優さんのお仕事を知れたし、知らない方言を分かった」「説明が分かりやすく、見本がとっても上手でした。さすが、声優さんだなあと感じました」等、方言に興味をもってワークショップに参加してもらうことができた。

「方言を使うのは楽しい」と回答した生徒が半数以上いたことから、楽しんで参加してもらえたことがうかがえる。「方言は大切なもの」「方言をなくしたくない」「方言の印象が良くなった」など、方言への関心が深まったと感じられる傾向がみられた

「方言は難しい」という回答も多かったが、その一方で「もっと方言を学びたい」「方言を聞ける場がもっとほしい」「方言を学校でも扱ってほしい」等、地元根付く方言の大切さを、アフレコ体験を通じて学んでもらうことができた。

上記のような生徒の意欲の高まりを受けて、ワークショップ後に、釜石小学校から漁火の会に方言語りの会の実施の要請があったことから、学校教育において方言に接する機会としても、アフレコ体験ワークショップが有意義であったと言えるだろう。

ワークショップの内容と参加者のアンケート結果は以下のとおり。

5 実施内容詳細

文化庁「被災地における方言活性化支援事業」方言アフレコ体験ワークショップ	
日時	平成 27 年 11 月 13 日（金） 14：00～15：30
開催地	釜石市立釜石小学校
講師	アフレコ：北方 奈月 方言：北村 弘子（漁火の会） 大野 眞男（岩手大学）
スタッフ	主催者：大野 眞男 運営：神田 雅章（C&R 社） 運営補助：千葉まき子（漁火の会） 撮影：渡邊 毅（C&R 社）
内容	<p>14：00～ ワークショップ開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師自己紹介 ・ガイダンス ・ウォーミングアップ <p>14:20～ 共通語アフレコ体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師による共通語アフレコ実演（一部抜粋） ・ペアで役を決めてのアフレコ練習＋助言 ※巡回しながら助言 ・ペアでリレーしてのアフレコ発表会（共通語）＋感想 <p>14：50～ 方言アフレコ体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・釜石方言指導 ・岩手編釜石方言版を視聴しながらペアでアフレコ練習＋助言 ・ペアでリレーしての方言アフレコ発表会＋感想 <p>15：25～ まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総括 ・童謡「うらしまたろう」おらほ弁版の合唱 ・生徒の感想発表

■釜石でのアンケート結果

ワークショップ実施日時：平成 27 年 11 月 13 日（金） 14：00～15：30

場所：釜石市立釜石小学校

参加人数：18 名

1. 本日のワークショップはいかがでしたか

とてもよかった	15 人
よかった	1 人
あまりよくなかった	0 人
よくなかった	0 人

2. 本日のワークショップの時間について

長い	0 人
やや長い	2 人
ちょうど良い	8 人
やや短い	5 人
短い	1 人

3. 本日のワークショップでよかった点

たくさんの人の前で方言をしゃべれてよかった。
分かりやすく教えてくれた。
教えてくれる所がよかったです。
釜石弁でアフレコの体験をやったりしたのが良かった。
釜石弁の先生から教えてくれた。分かりやすかった。
釜石弁は自信がなかったけど分かりやすく教えてくれた。
分かりやすく説明をしてくれたことです。
分かりやすく方言を教えてもらった。
分からない方言を楽しく教えてくれたので、良かったです。
分からない方言も教えてくれて良かった。
説明が分かりやすく、見本がとっても上手でした。さすが、声優さんだなあと思いました。
ちゃんと方言を教えてくれていた。
分かりやすく教えてくれた。
分かりやすく覚えられたので、良かったです。
声優さんのお仕事を知れたし、知らない方言を分かった。
分かりやすく教えてくれた。分からないことを教えてくれた。

4. 本日のワークショップでの改善点

記入なし(13名)
特になし(3名)

5. ワークショップに参加して、釜石方言に興味は持てましたか

とても興味を持てた	10人
興味を持てた	5人
あまり興味を持てなかった	0人
興味を持てなかった	0人
その他：日頃使っています	1人

6. 釜石方言についての思いとしてあてはまるもの

もっと方言を学びたい	9人
方言はむずかしい	7人
方言の印象が良くなった	6人
方言の印象が悪くなった	0人
方言は大切なもの	7人
方言のほうが気持ちを表しやすい	4人
方言のほうが気持ちを表しにくい	0人
方言を使うのは楽しい	10人
方言をなくしたくない	6人
方言はなくなっても仕方ない	0人
方言を学校でも扱ってほしい	5人
方言を聞ける場がもっとほしい	6人